

# シビックプライド

## ～いま、地域に必要なこと～

「シビックプライド」とは、都市に対する市民の誇りを指す言葉です。「郷土愛」「まち自慢」など、単に愛着を示す言葉とはニュアンスが異なり、「この都市をより良い場所にするために自分自身が関わっている」「自分がこの都市の未来をつくっている」という当事者意識を伴う自負心のことをいいます<sup>(※)</sup>。こうしたシビックプライドを持つ住民には、まちづくりや地域づくりへの積極的な参画が期待できます。

近年、まちづくり・地域づくりに関して、このシビックプライドという言葉が日本でも使われるようになってきました。「シビックプライドを持つ住民は、まちづくり・地域づくりの大きな資源になる」という考え方のもと、シビックプライド醸成のための取組を進める自治体も多く、全国的に関心の高さがうかがわれます。

まちづくりや地域活性化の方針にシビックプライドの考え方を盛り込む例のほか、横浜市と東急電鉄が進める「次世代郊外まちづくり」など、行政が民間企業やNPO等と協働してシビックプライドの醸成に取り組む先進的な事例も出てきています。

今後ますますの進展が見込まれている人口減少・少子高齢社会を背景に、「共助社会づくり」「住民参加のまちづくり」「公民連携・官民協働」「地域・コミュニティ活性化」「シニア活躍」などが自治体の課題として挙げられている今、まちに対する住民の誇りを喚起することが求められています。そうした中で、シビックプライドは多くの自治体にとって一層重要なテーマとなってくると考えられます。

そこで、政策情報誌「Think-ing」第19号では、「シビックプライド」を特集テーマとし、これに関する有識者・実務家の方のご寄稿や政策提案、自治体の取組事例等を幅広く取り上げます。

各自治体における取組のヒントにいただければ幸いです。

(※)参考：シビックプライド研究会「シビックプライド2【国内編】都市と市民のかかわりをデザインする」 宣伝会議、2015年